

# 令和7年度 成田市学力調査 結果の概要について



成田市教育委員会



## 目 次

1. 調査の概要	—————	P	1-2
(1) 成田市学力調査の目的			
(2) 令和7年度 成田市学力調査の実施について			
(3) 結果の公表について			
2. 成田市学力調査の結果	—————	P	3
(1) 小学校1年生		P	3
(2) 小学校2年生		P	4
(3) 小学校3年生		P	5
(4) 小学校4年生		P	6
(5) 小学校5年生		P	7
(6) 小学校6年生		P	9
(7) 中学校1年生		P	11
(8) 中学校2年生		P	13
3. 成田市学力調査の結果を受けた学力向上への取り組み	—————	P	15
(1) 全国学力・学習状況調査と成田市学力調査の活用基準			
(2) 全国学力・学習状況調査よりも成田市学力調査を中心に活用する理由について			
(3) 成田市学力調査を活用した、学力向上への取り組みのサイクル（参考例）			
4. 学力向上を目指して ～本市の教育振興基本計画を知る～	—————	P	16
(1) 成田市学校教育振興基本計画「輝くみらいNARITA教育プラン」		P	16
(2) 第3期千葉県教育振興基本計画と成田市教育振興基本計画との関わり		P	17
(3) 「成田市教育施策基本目標1-2」と「教育指導課・学力向上への取り組み」との関わり		P	18
5. 学力向上に向けた市内共通実践課題	—————	P	19
(1) 成田市教育委員会 教育指導課「学校教育の方針と重点」の周知			
(2) 相互実践研修の実施			
(3) 学力向上における共通実践の設定			

# 1 調査の概要

## (1) 成田市学力調査の目的

<学校及び児童・生徒>

- ・学校が児童・生徒の学習内容の定着状況を把握・分析・検証し、次年度以降の教育活動に学校全体で活用する。
- ・教師が1年間の学習指導を振り返り、次年度に向けて改善・向上を図る。
- ・児童生徒が学習内容の定着状況を振り返り、学力及び学習習慣の改善・向上を図る。

<成田市教育委員会>

- ・市全体及び各小中学校の学習状況を把握・分析し、学力の向上、指導の改善を促す。

## (2) 令和7年度 成田市学力調査の実施について

### ①実施時期

PBT方式(小学校1年生・2年生) : 令和7年12月3日・4日

CBT方式(小学校3年生～中学校2年生) : 令和8年1月9日～19日

### ②実施人数及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校 義務教育学校 前期課程	1年生	797人	・国語、算数：小1～小6 ・理科：小3～小6 ・社会：小5～小6 (小3・4では「わたしたちの成田市」を学習しているため、日本の地理や産業を学習する小5から調査対象とする。)
	2年生	885人	
	3年生	879人	
	4年生	971人	
	5年生	959人	
	6年生	1,013人	
中学校 義務教育学校 後期課程	1年生 (7年生)	1,016人	・国語、社会、数学、理科、英語：中1～中2 (7年生～8年生) ※中3は受験対策のため調査対象から外す。
	2年生 (8年生)	1,048人	

### ③出題内容

①実施時間	・ 小学校 40分、中学校 45分
②問題作成の基本方針	・ 学習指導要領に基づき、すべての小問について「出題のねらい」「該当する学習指導要領の項目」を踏まえて作成 ・ 本市小中学校が使用している教科書の内容を踏まえて作成 ・ 児童生徒にとって最適な図や文字の大きさ、レイアウトで作成
③出題範囲	・ 該当学年の11月末までの学習内容 ※中学校理科も成田市採用である啓林館の標準的な指導計画の内、11月分までの内容で回答（全中学校統一）
④基礎・活用の割合	・ 基礎問題（主として知識に関する問題）を全体の70～80%出題 ・ 活用に関する問題は全体の約20～30%出題
⑤解答方式	・ 記述、論述形式の問題を全体の20%程度出題 ・ 小学校1年生：PBT方式（問題用紙に直接書き込む形式） ・ 小学校2年生：PBT方式（別紙の解答用紙に書き込む形式） ・ 小学校3年生～中学校2年生：CBT方式（小学校3年生は選択問題のみ）

### （3）結果の公表について

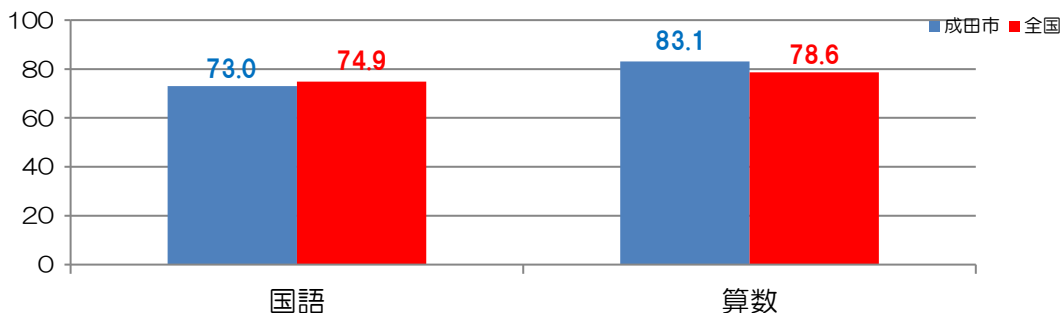
本調査の趣旨は、「児童生徒の学力を把握し、子どもの学習習慣及び教師の学習指導の改善・向上を図る」ものである。ついては、以下の2点に留意する。

- |  |
|--|
| <p>①結果を公表する際は、学校または学年ごとに分析した成果と課題、今後の対策、児童生徒及び家庭へのアドバイスなどを明示すること。たとえば、特に正答率が高いまたは低い問題については、その出題内容を引用し、具体的な分析結果等を記載するなど、児童生徒及び保護者へ啓発を図ることができるよう配慮すること。</p> <p>②学校間の序列化や過度の競争を避けるため、単なる数値結果のみの公表は行わないこと。</p> |
|--|

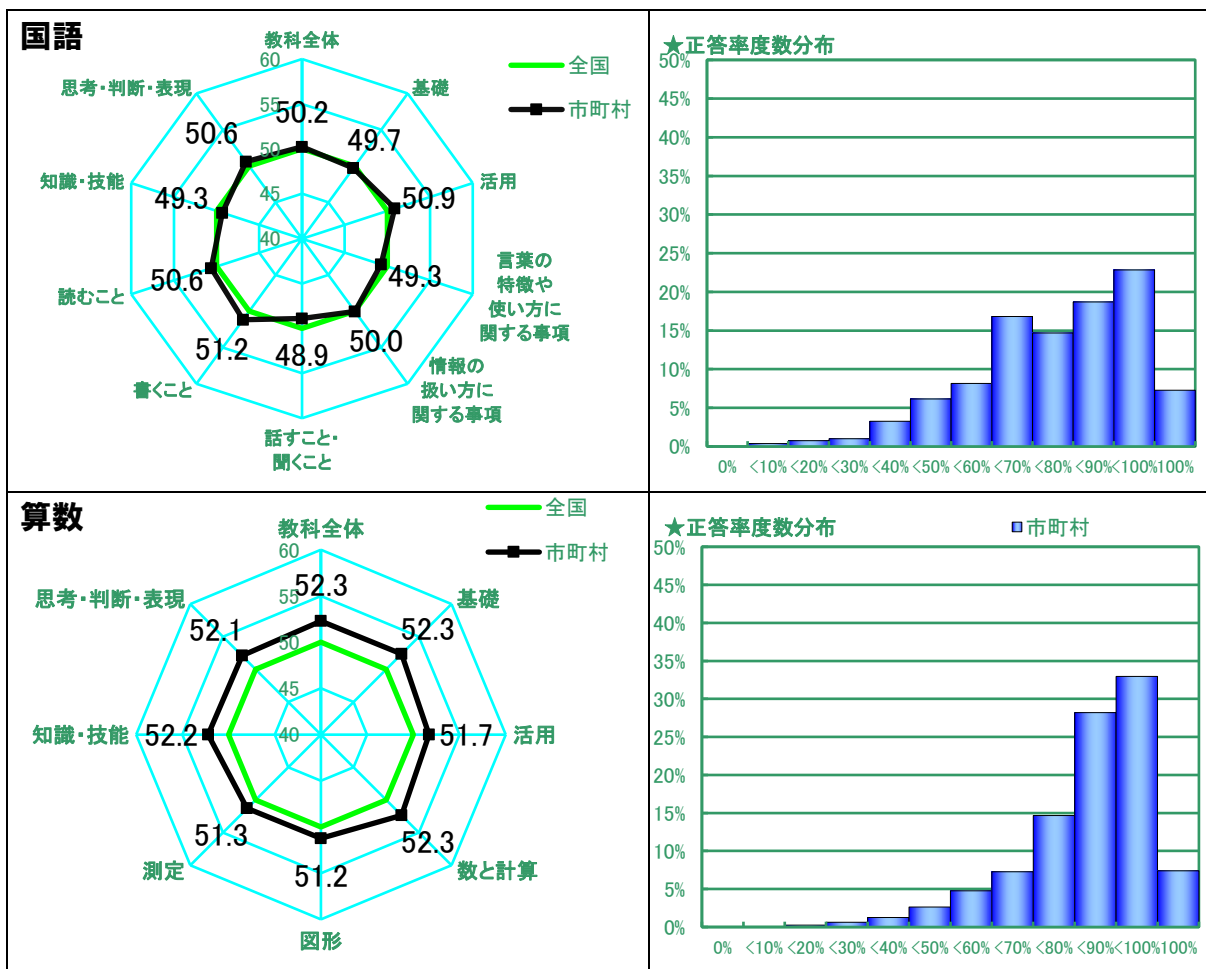
## 2 成田市学力調査の結果

### (1) 小学校1年生 (PBT)

#### ①各教科の平均正答率



#### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国) 右: 正答率度数分布)



#### 【国語科】

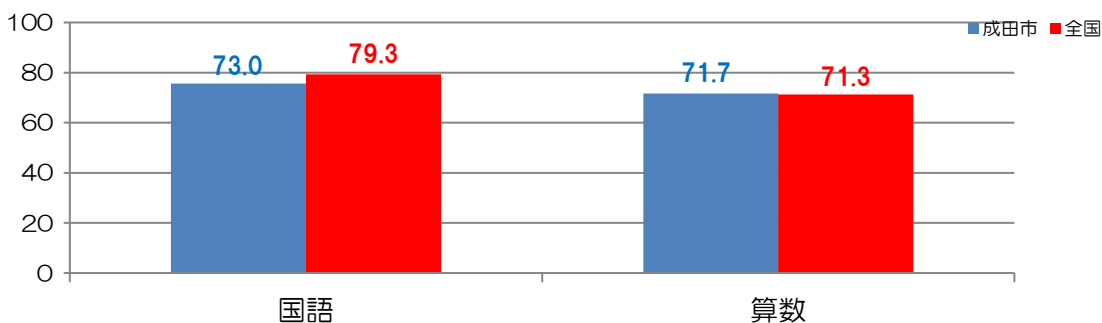
- 物語文において、登場人物の行動から、その時の気持ちを多角的に想像し、場面の変化を丁寧に読み解くことができるよう、授業改善が必要である。
- 「話すこと・聞くこと」の設問では、単に聞くだけではなく、「なぜ?」「どうして?」と問い返すことが大切である。主体的に「聞く」姿勢を身に付けたい。

#### 【算数科】

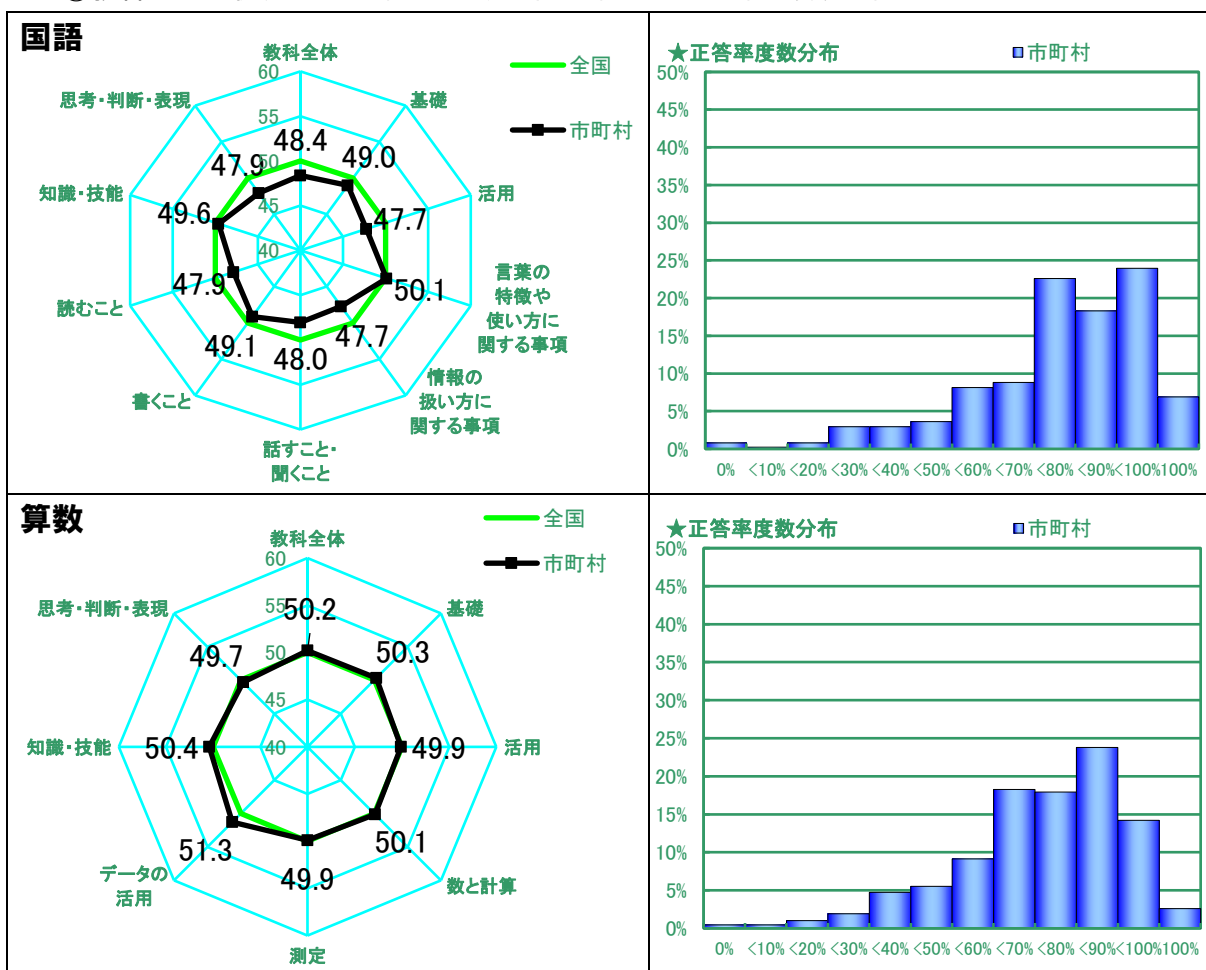
- どの問題・領域においても、全国を上回る良好な結果が得られた。
- 示された式に合う問題を、自分で作ることに課題が見られた。答えが一つに決まる問題だけでなく、答えから問題を作成したり、答えが出たら他の方法で考えてみたりと、数学的な見方・考え方を広げていけるような取組を大切にしたい。

## (2) 小学校2年生 (PBT)

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国) 右: 正答率度数分布)



#### 【国語科】

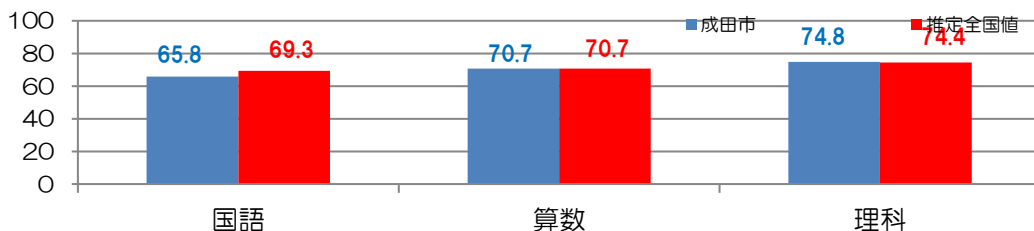
- 全体的に全国を下回る結果となっている。
- 物語文では「いつ、どこで、だれが、どうした」を見つけたり、文中に繰り返されている言葉に注目したりしながら読むことが大切である。また、日常の中で主語と述語を意識して話したり、書いたりすることが大切である。

#### 【算数科】

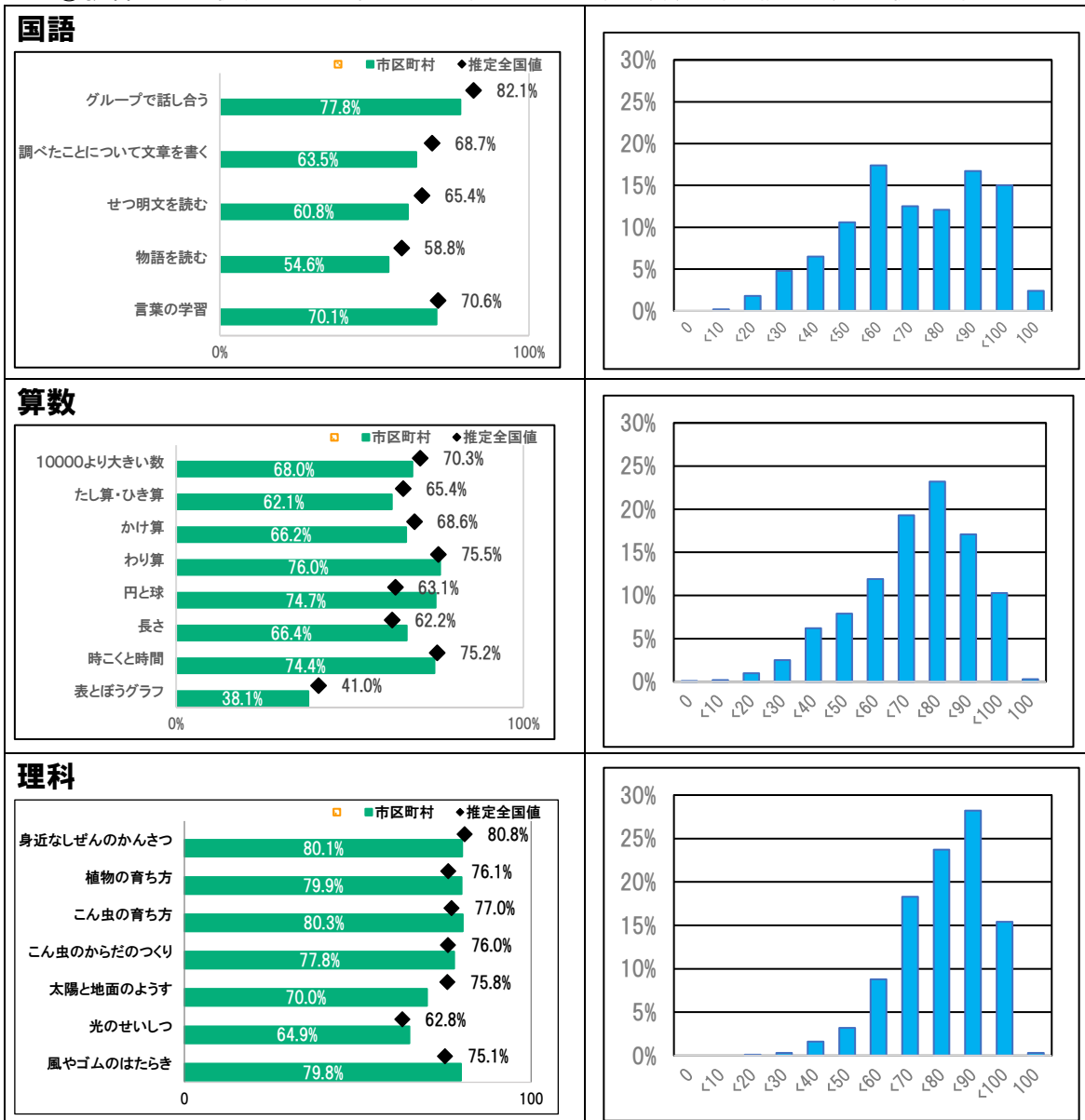
- 概ね全国平均と同程度の結果であったが、「思考・判断・表現」の観点において若干の課題が見られた。
- 特に、もとになる数を考えて計算することや、文章から必要な数値を選択して考える問題などに課題が見られたことから、問題が解けるだけでなく、数直線や図に表して考えたり、解き方を先生や友達に説明したりする活動を多く取り入れ、数や式の見方を広げていくことが大切である。

### (3) 小学校3年生 (CBT)

#### ①各教科の平均正答率



#### ②教科ごとの状況 (左: 内容ごとの正答率 右: 正答率度数分布 縦: 人数比 横: 正答率)



#### 【国語科】

- 全国値を下回った結果となった。
- たくさんの情報の中から大事なことを見つけたり、整理して順序よくまとめたりする力を伸ばしていく必要がある。
- 相手の話を整理して聞いたり、自分の考えをわかりやすく話したり書いたりする力を高めるために、日記やメモを書く際、段落に分けることを意識することが大切である。

#### 【算数科】

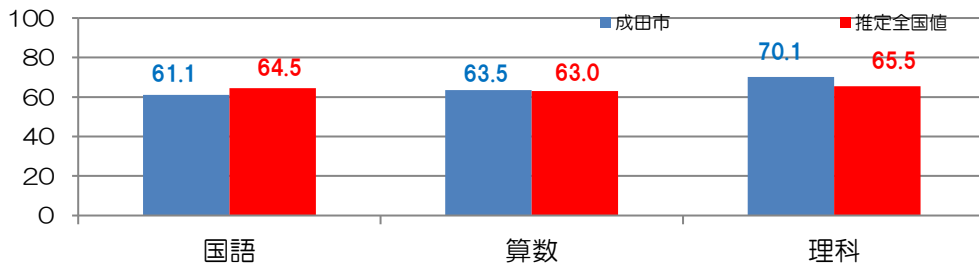
- 概ね全国値と同程度の結果であった。
- 線分図に表して考える問題や、単位の考え方に課題が見られたことから、文章を読んで場面の様子や数の関係を図に表したり、立式の理由を説明したりする活動を行うことで、数や式への見方・考え方を広げることが重要である。

#### 【理科】

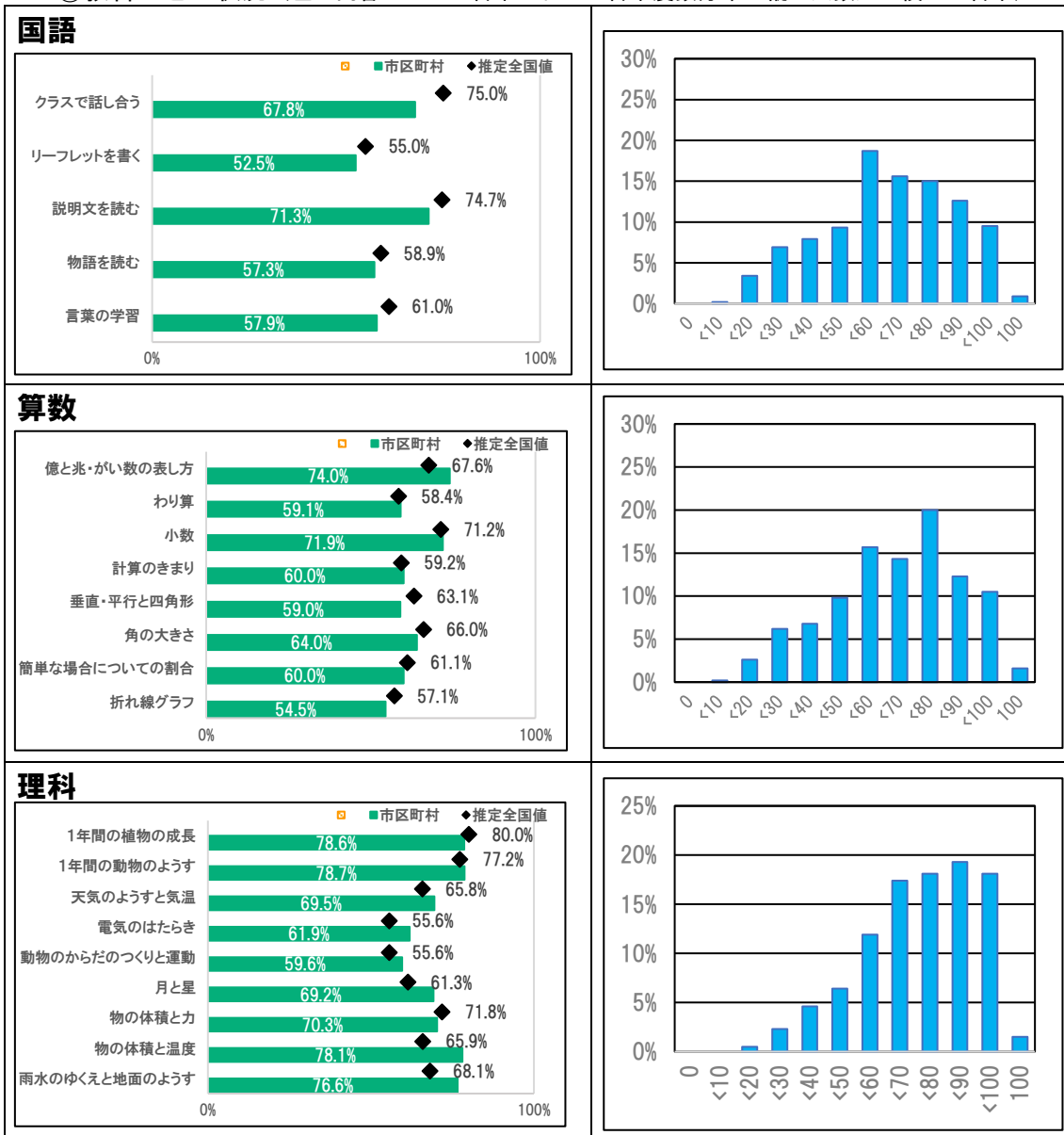
- 全国平均を上回っており、良好な結果が得られた。
- 「太陽と地面のようす」では、正答率が全体的に低く、特に基礎的な内容で正答率が低くなった。既習内容をよく確認し、基礎的な内容を十分に理解する必要がある。

#### (4) 小学校4年生 (CBT)

##### ①各教科の平均正答率



##### ②教科ごとの状況 (左: 内容ごとの正答率 右: 正答率度数分布 縦: 人数比 横: 正答率)



##### 【国語科】

- 漢字の書き取りや、主語と述語の関係などの「知識・技能」定着を丁寧にはかる必要がある。
- 「話すこと・聞くこと」の学習では、単に意見を出すだけでなく、司会や記録などの役割を自覚することが大切である。

##### 【算数科】

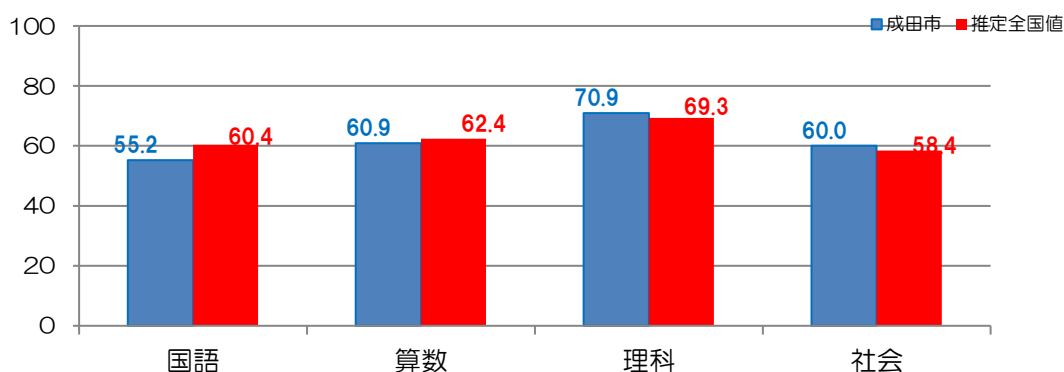
- 全国値と同程度の結果となった。
- 「図形」の領域で課題が見られた。図形の性質については、言葉での理解だけでなく、性質を図に書き込みながら説明するような活動を行うことで、定着を図ることが大切である。

##### 【理科】

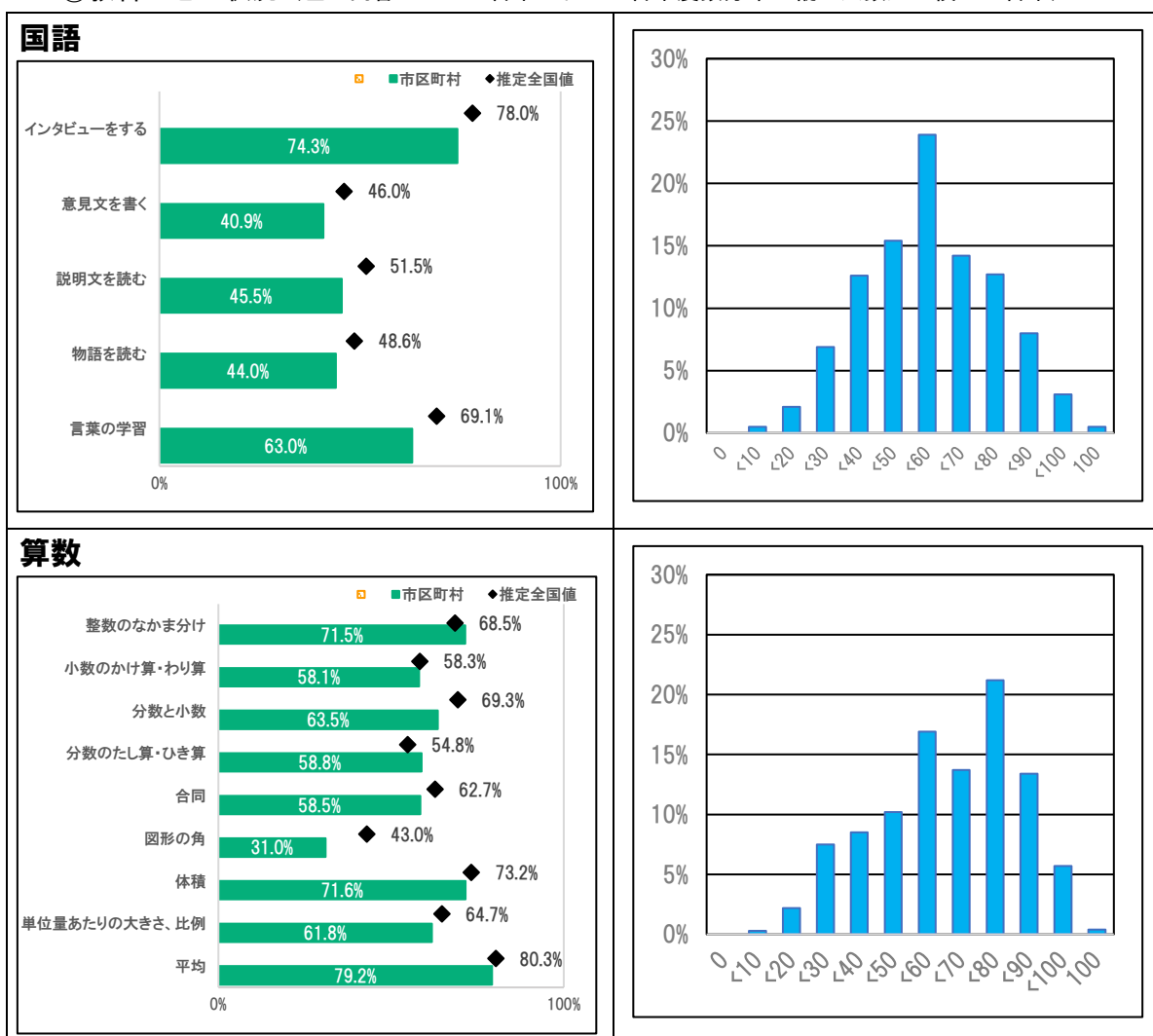
- 全国平均を上回っており、良好な結果が得られた。
- 「物の堆積と温度」や「月と星」の単元で良好な結果が得られたが、「1年間の植物の成長」や「物の体積と力」では、知識・技能、思考・判断・表現ともに課題が見られた。

## (5) 小学校5年生 (CBT)

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 内容ごとの正答率 右: 正答率度数分布 縦: 人数比 横: 正答率)

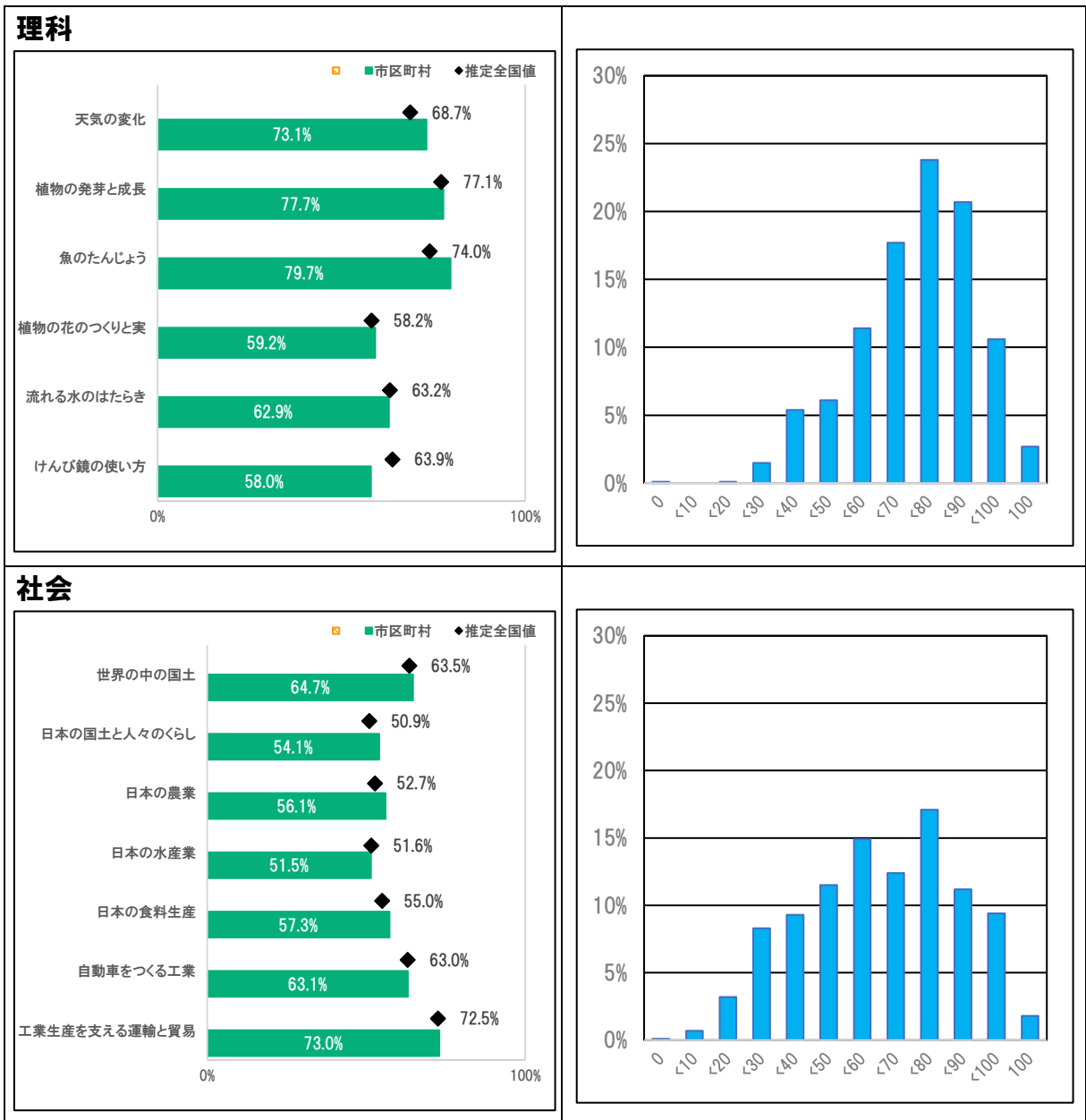


#### 【国語科】

- 全国値を下回る結果となった。
- 4年生で学習した漢字の書き取りや「書くこと」では、「なぜそう言えるのか」という根拠（理由）を明確に示しながら書く練習をする必要がある。
- 要約する力を養うために、「自分の意見を持つ」「まとめる」「話す」という一連のプロセスを、日常生活の中で意識することが大切である。

#### 【算数科】

- 全国値を下回る結果となった。特に「分数と小数」「図形の角」の問題で課題が見られた。
- 「問題文と式」「式と図」「文と図」など、様々な表現方法を関連付けて考えたり、表現したりすることを普段の学習から意識して、数学的な見方・考え方を養うことが重要である。



【理科】

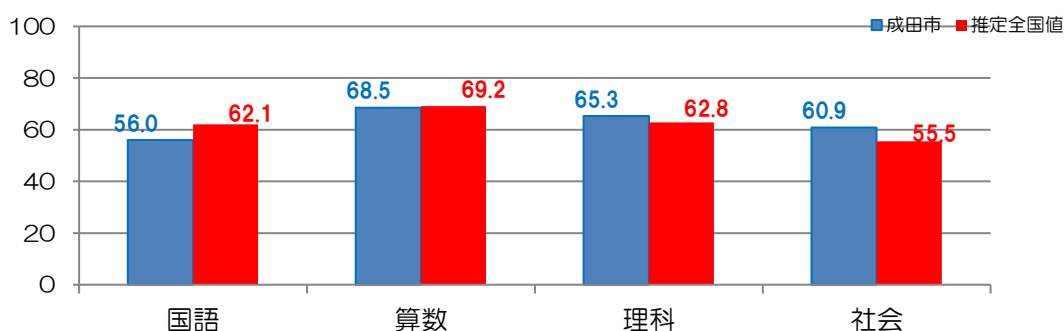
- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 顕微鏡の使い方について課題が見られた。顕微鏡の部位の名称、役割とよく確認し、観察物を観察するための顕微鏡を操作方法について、理解を深めたい。また、実際に顕微鏡を使用し観察をすることで、経験を通して理解が深められると考える。

【社会科】

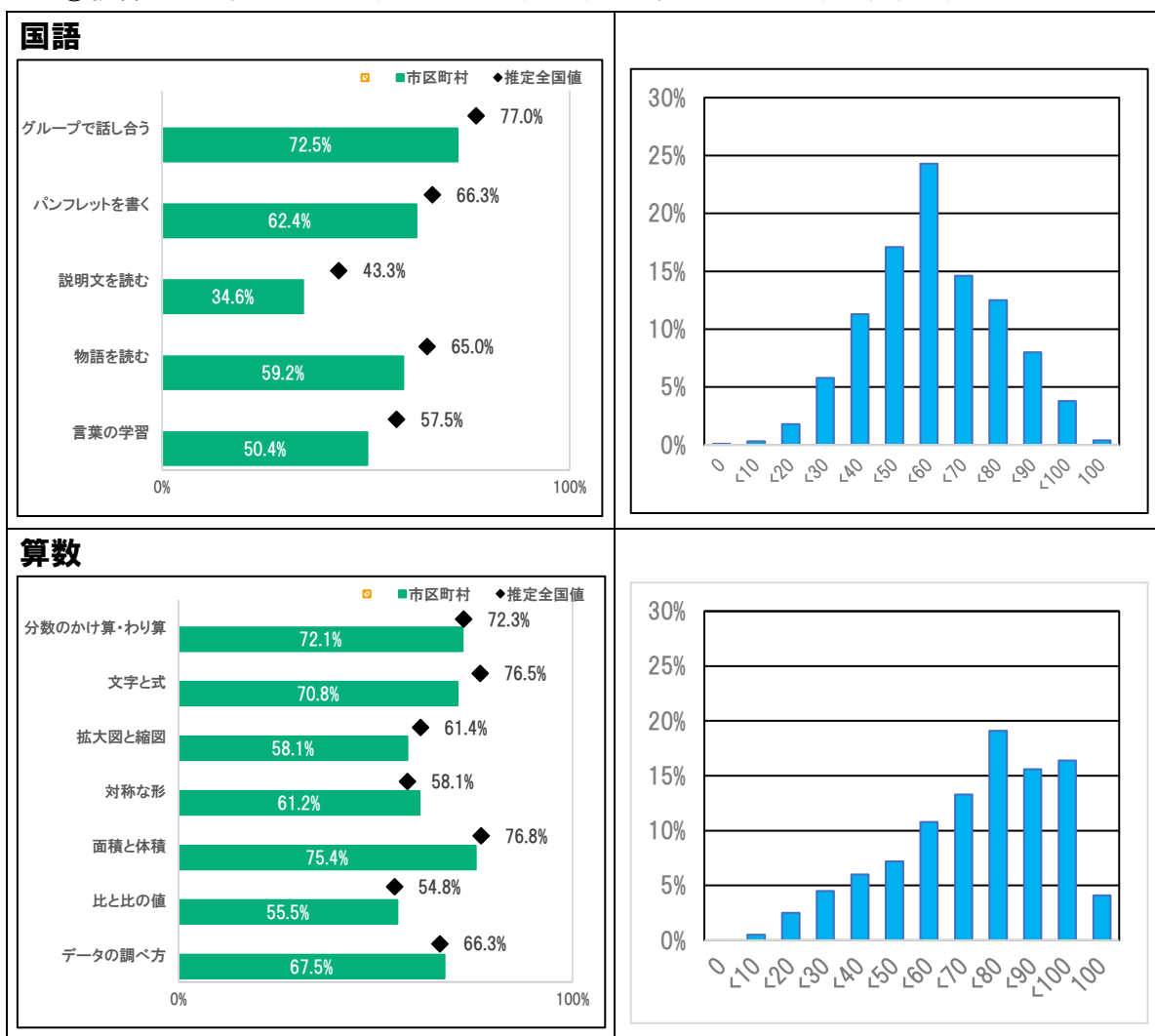
- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 「国土の自然などの様子」の領域では、日本の気候の様子や、雨温図の読み取りにおいて課題が見られた。雨温図や地図、グラフなどを関連付けて考えるよう、資料でしらべたことを、自分の言葉でまとめることができる力の定着を図りたい。

## (6) 小学校6年生 (CBT)

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



#### 【国語科】

○全国値を下回っており、文章と表を結び付けたり、自分の考えをまとめたりする記述問題に課題が見られた。

○文と文の関係を正しく理解するために、「だから」「しかし」などの接続詞を意識したり、ニュースなどを一言でまとめる要約の練習をしたりすることが大切である。

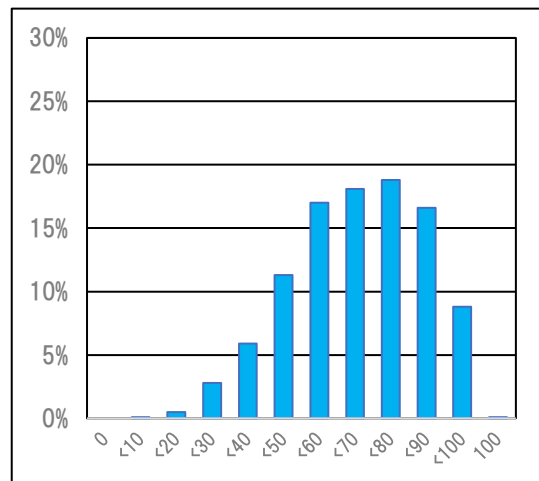
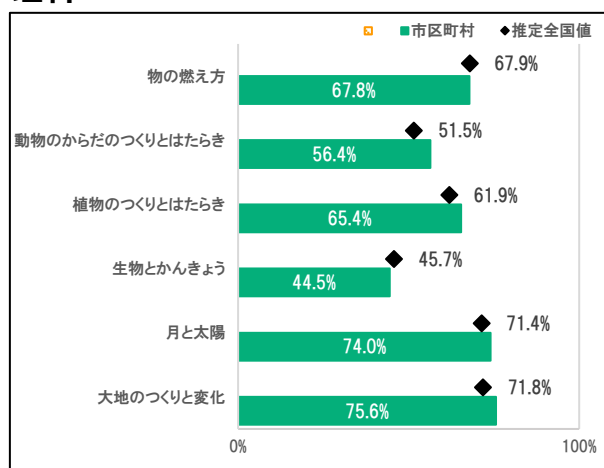
#### 【算数科】

○若干、全国平均を下回っており、課題が見られた。

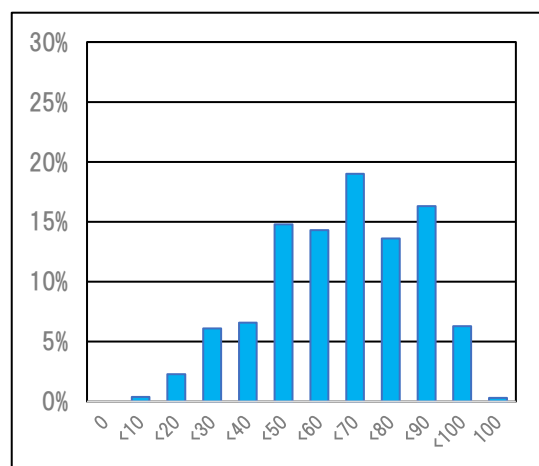
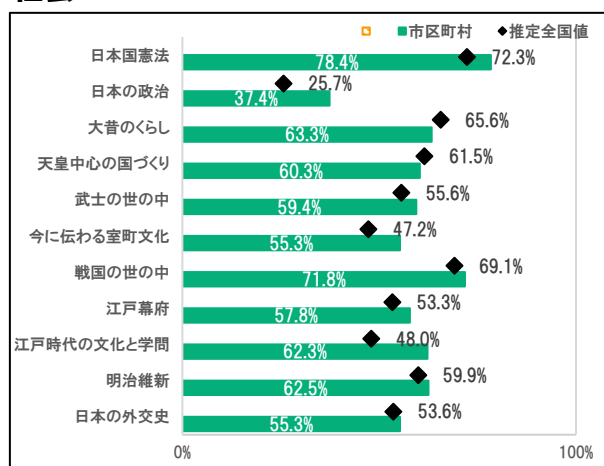
○「分数のかけ算・わり算」では、「問題→数直線や図で表す→式を立てる」というプロセスを意識して学習することで、数の見方を広げることが重要である。

○作図では、かいて終わりではなく、各手順の意味まで考えさせることで、深い理解に繋

## 理科



## 社会



### 【理科】

○全国平均を上回っており、良好な結果が得られた。

○「物の燃え方」や「生物とかんきょう」の単元では、基本的な知識が不足している部分が見られた。特に、「物の燃え方」では酸素や二酸化炭素の特徴を十分に理解する必要性があり、基礎的な学習を大切にしていきたい。

### 【社会科】

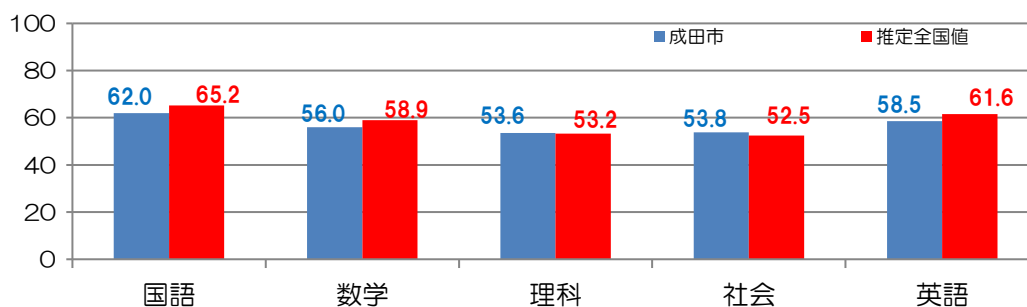
○概ね全国平均と同程度か、複数の領域で全国平均を上回った。

○政治の学習は、基本的な政治の仕組み、国会や内閣の働きについて理解させたい。

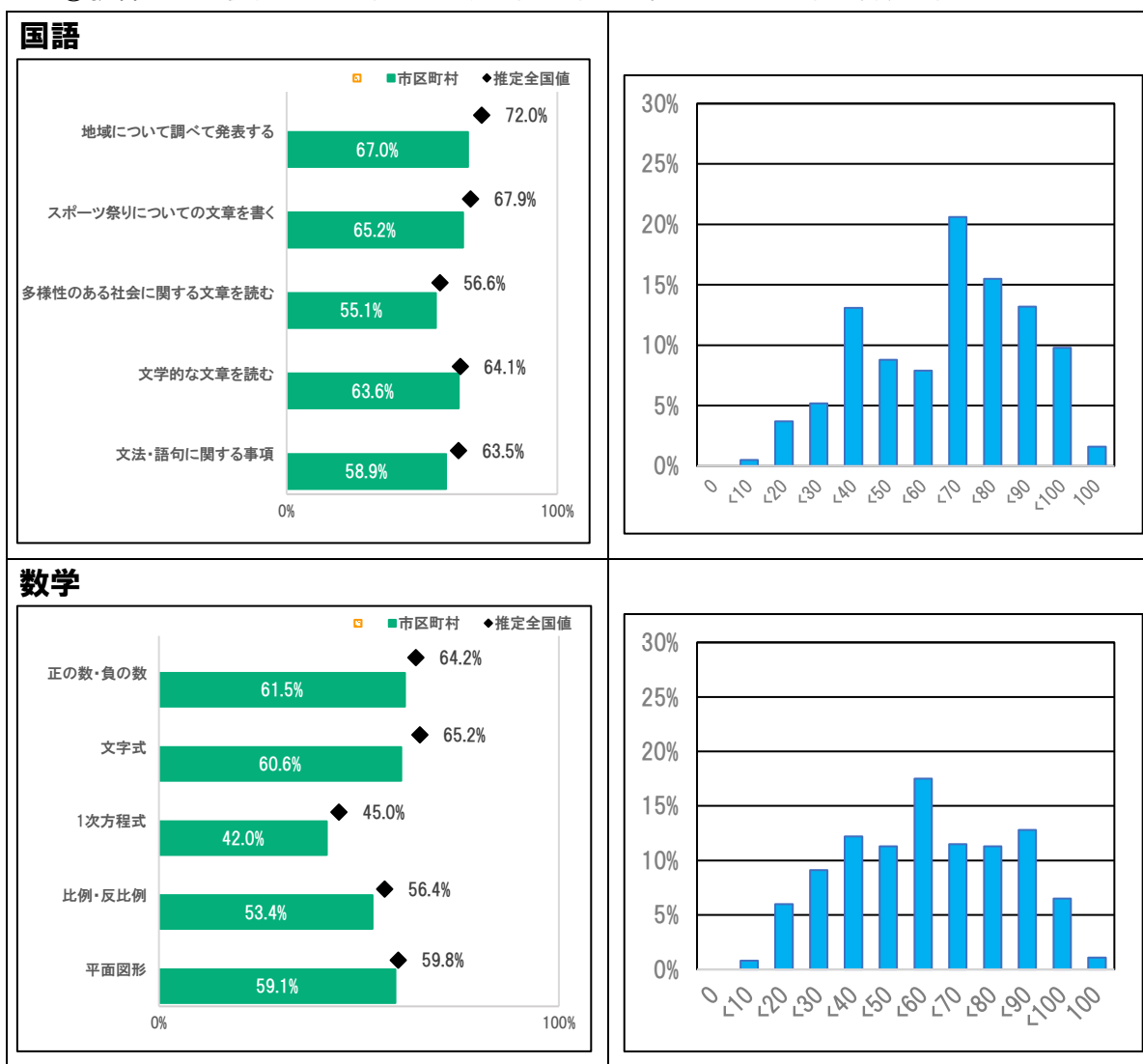
○歴史の学習は、歴史的人物が行った政策や、どんな国づくりを目指したかなど、その背景について理解させることが必要である。また、各時代の政治、生活、文化の違いについても資料から読みとる活動を入れた学習を大切にしたい。

## (7) 中学校1年生 (CBT)

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



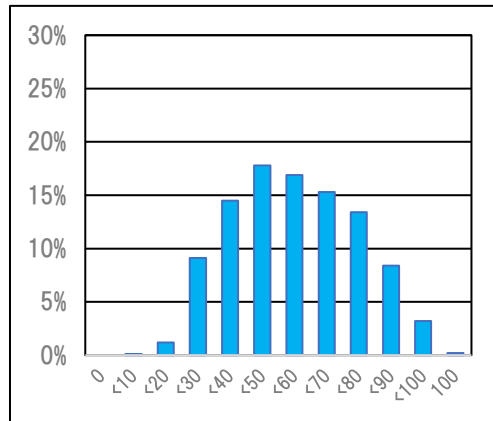
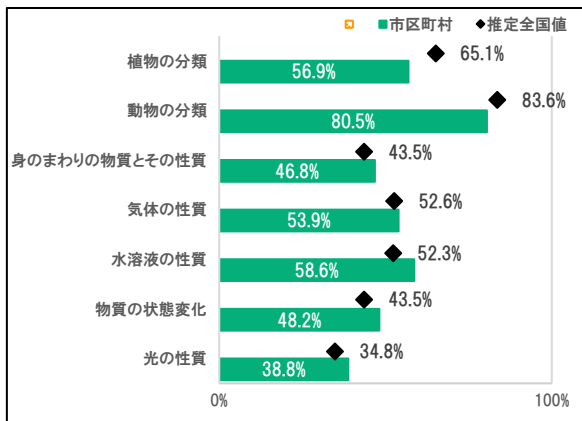
#### 【国語科】

- 全国値を下回る結果であった。
- 登場人物の心情理解などは概ね良好だが、文法の基礎や、目的をもって話を聞く力には更なる向上が必要である。
- 文節の区切りなどの言語事項を繰り返し練習し、確かな知識の習得を目指すとともに、読書や日常の会話を通じて、言葉の意味や話の道筋を意識する機会を大切にすることが重要である。

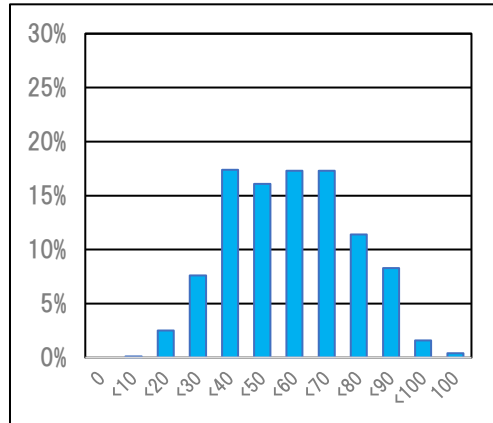
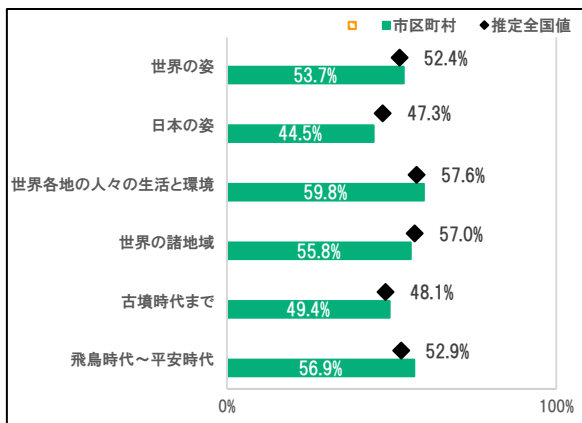
#### 【数学科】

- 推定全国値と比較して同程度の結果であった。「一次方程式」の領域に課題が見られた。
- 正答率 80%以上の層が合計で約 20.4%いる一方で、30%未満の層も約 15.9%いる。
- 事象を数式にする力が不足しているため、表や線分図等で整理する力が必要である。

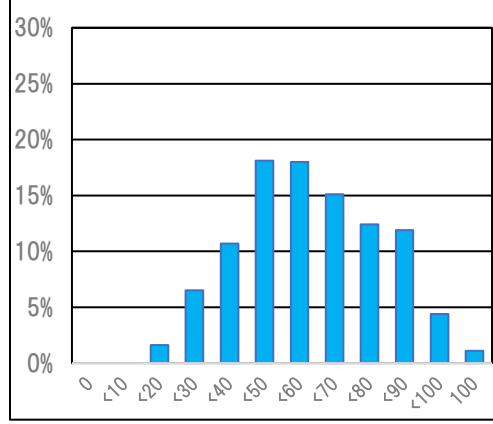
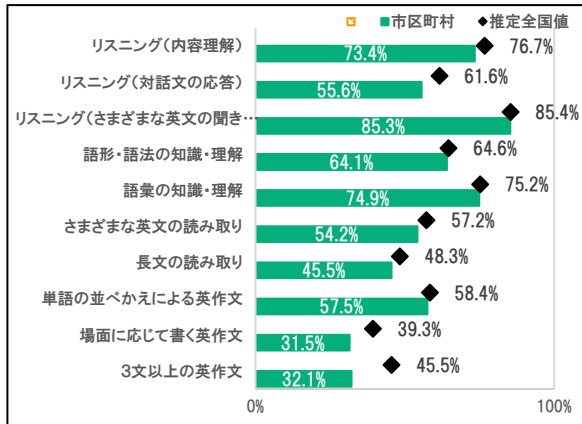
## 理科



## 社会



## 英語



### 【理科】

- 推定全国値と比較して同程度の結果であった。しかし、「植物の分類」、「動物の分類」では正答率が低く、特に基礎となる知識の習得に課題が見られる。既習の知識をしっかりと整理し学習することが必要である。

### 【社会科】

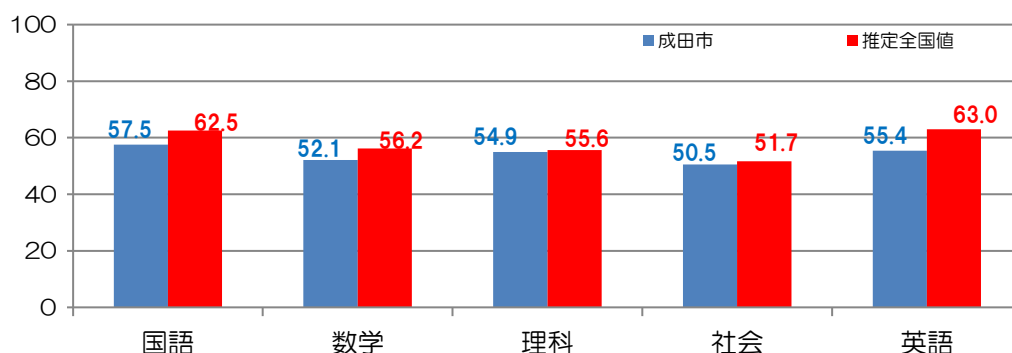
- 全体的に全国平均を上回っている領域・観点が多い。
- 地理的分野については、都道府県の場所と名前、県庁所在地についての基本的な知識を身につけ、名所と地図と結びつけて、地理的な特色をまとめさせたい。
- 歴史分野については、日本と東アジアの繋がりがやその影響について理解することが必要である。

### 【英語科】

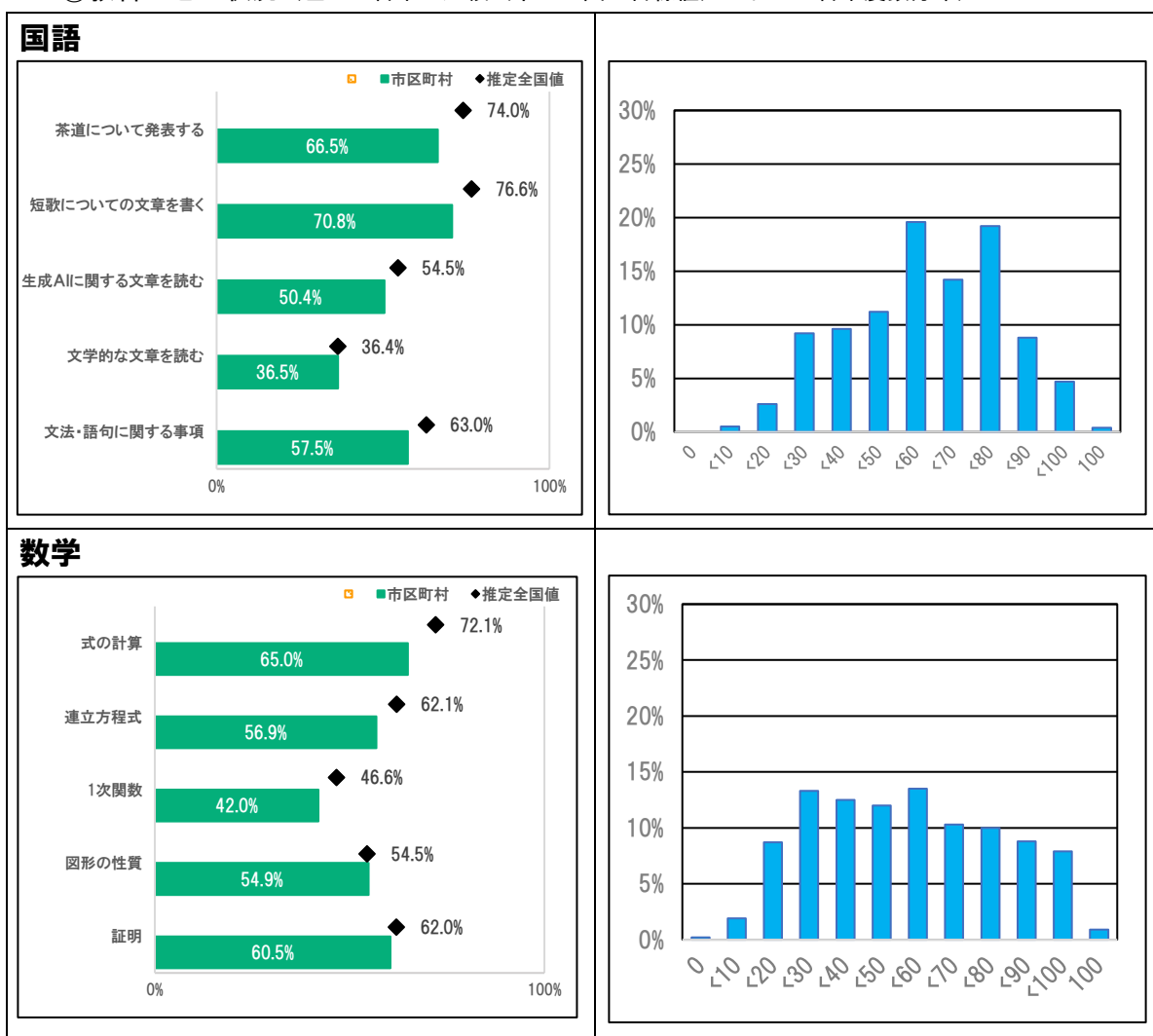
- 全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られる。
- リスニングやライティングの問題において、必要な情報を整理して選択することを必要とする問題は特に低い傾向があった。特に表を読み取りながら、聞かれている情報について適切に選択する問題の正答率が低い傾向がある。

## (8) 中学校2年生 (CBT)

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



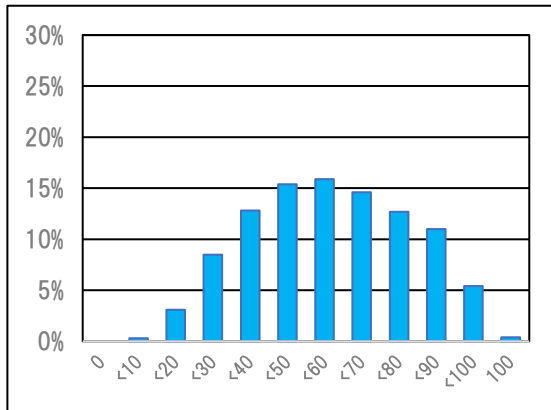
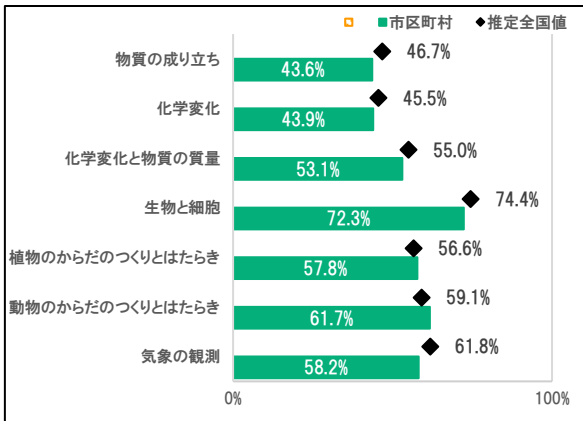
#### 【国語科】

- 全国値を下回る結果となった。
- 文章表現の効果を捉える力は概ね良好な結果が得られたが、「話す・聞く」の領域には課題がある。
- 相手の立場を尊重しながら、聞き取った情報を論理的に整理し、登場人物等の相関関係や背景を正しく捉える力を養うことが大切である。

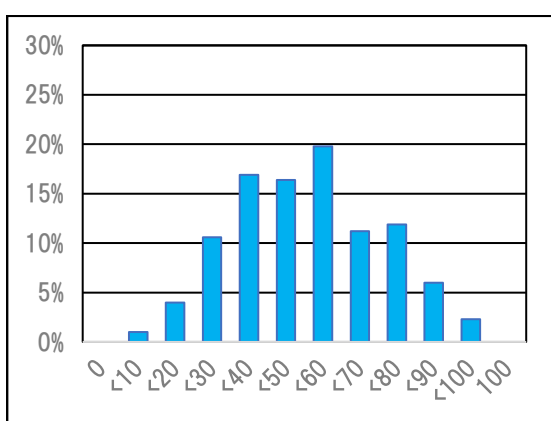
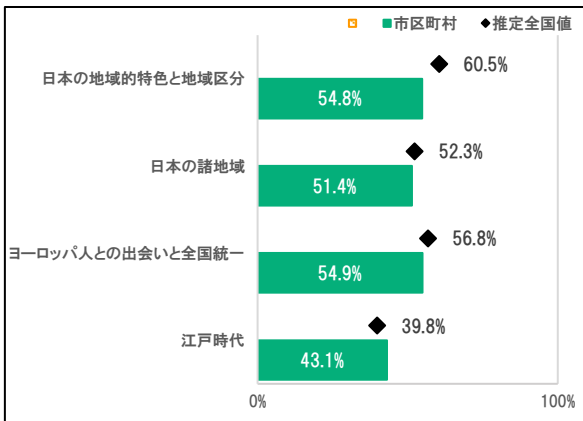
#### 【数学科】

- 推定全国値と比較して同程度の結果であった。「連立方程式」の領域に課題が見られた。
- 正答率30%未達が約24.1%となっており、基礎的な概念の定着が必要である。
- 「式の値」の代入操作など、基礎計算を授業の冒頭5分で徹底して行うことや、ICT端末を用いた個別学習で、生徒個々のつまずきを学び直すことが大切である。

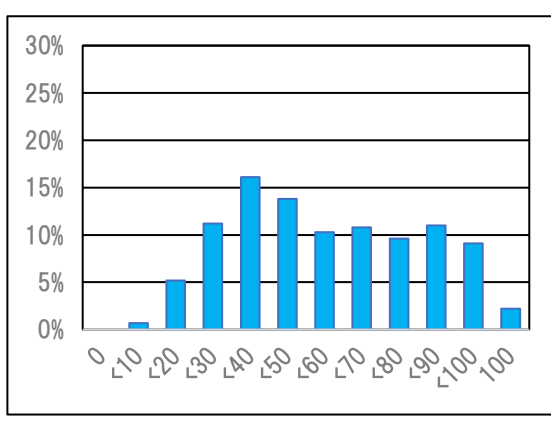
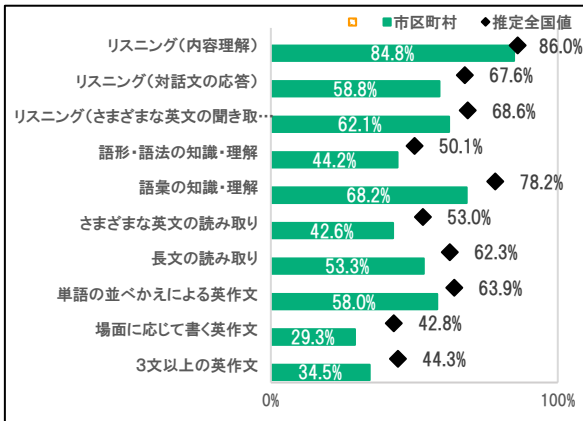
## 理科



## 社会



## 英語



### 【理科】

○全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られた。特に、「粒子」の領域に課題が見られた。実験・観察と関連付けて、基本的な実験・観察の方法や結果について、その実験における化学反応を化学反応式で表現するなど基本的な知識の定着を行い、理解を深めたい。

### 【社会科】

○全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られた。特に、記述式の問題に課題が見られる。  
 ○複数の資料を読み取り、考察したり、書き表したりする活動をとおして、学んだ知識を関連付けながら表現できる場を授業の中で設けたい。

### 【英語科】

○全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られた。  
 ○リスニングの問題において聞き取ってはいるが、前後の文脈を捉え適切に選択することが苦手な子が多い。リスニング、リーディング、ライティング全ての領域において知識・技能を問われる問題で、小学校で慣れ親しんでいる表現には強く、そうでないものには弱い傾向が顕著であった。

### 3. 成田市学力調査の結果を受けた

#### 学力向上への取り組み

基本目標 1-2-(3)

##### (1) 全国学力・学習状況調査と成田市学力調査の活用基準

本市が策定している成田市教育振興基本計画「輝くみらい NARITA 教育プラン」においては、成田市学力調査は、「児童生徒一人一人の学習内容の理解状況を客観的に把握し、具体的な学力向上策を検討していく資料」として扱うこととしている。

成田市として、「全国学力・学習状況調査」と「成田市学力調査」の基本的な活用基準は以下のとおりである。

市の学力調査の活用方法	= 学力向上の効果の確認、教職員の指導力改善及び、新年度教育課程編成の資料として活用する。
全国学力調査の活用方法	= 全国・県との相対的な位置を把握し、その平均との比較から成田市の学力向上の方策を図る。また、学習習慣の状況を児童生徒質問紙から実態把握を行う。

##### (2) 全国学力・学習状況調査よりも成田市学力調査を中心に活用する理由について

- ・経年で比較する際に、同一集団で比較ができる。(確実に集団ののびを把握することができるので、この部分を効果的に活用する。)
- ・学期末5年生と新年度6年生の結果を比較した場合、それほど大きな変化はない。このことから年度末に児童・生徒の実態を把握することができ、新年度の教育課程に効果的に活かすことができる。

##### (3) 成田市学力調査を活用した、学力向上の取り組みサイクル（参考例）

○調査実施～年度末

12月上旬～	2月上旬	2月中～下旬		3月上旬以降
・成田市学力調査実施	・学力調査の結果返却（結果をもとにした次年度の学力向上策についての検討）	・研究主任・教務主任を対象とした研修会等で、成田市学力調査の分析方法について周知する。	・学力向上対策シート作成 ・学力調査の結果を分析し、課題を明確にした上で次年度の方針を立てる。	・次年度の校内研修計画立案

○新年度～成田市学力調査実施までの期間

	4月	4月・5月	6月・7月・8月		10月	11月	12月
成田市学力調査	・成田市教育振興基本計画の確認及び、指導課の重点の周知	・学力調査の結果を引き継ぎ、学級・学年の現状を把握した上で学習指導にあたる。 ・自身の指導について振り返り、指導法の改善を図る。	・第1回学力向上推進委員会の開催（学力向上対策シートをもとにした学力向上の方針を立案。） ・結果をもとにした、校内研修の実施 ※ここで全国学力調査の結果も加味した研修会を各学校で実施する。 ※6月中 一般競争入札にて業者の決定（R3年度より）		・第2回学力向上推進委員会の開催。 （全国学力調査の結果をもとにした、学力向上策の考察） 全国学力調査の指導改善についての調査報告		・上旬に実施
全国学力調査	(全国学力・学習状況調査の実施)		全国学力調査の結果返却	全国学力調査を元にした分析			学校基本情報の確認

## 4. 学力向上を目指して ～本市の教育振興基本計画を知る～

### (1) 成田市学校教育振興基本計画

# 成田市学校教育振興基本計画 輝くみらい NARITA 教育プラン

子どもの多様な個性 能力を伸ばし 未来をひらく力を育む

- 国際空港を擁する成田ならではの国際理解・英語教育の充実
- 成田の伝統・歴史文化を通じた教育の推進
- 地域との協働による開かれた学校づくりの推進
- 小中連携の推進

#### 基本目標 1

##### 社会を生き抜く力を育む

- 1 豊かな学びを支える学校・学習環境づくり
  - ・個性・才能を伸ばす特色ある学校づくり
  - ・地域に開かれた学校づくり
- 2 学習指導の充実（基礎学力の習得・充実）
  - ・学習習慣の定着/少人数指導
- 3 子どもの健康・体力づくりの推進
  - ・児童生徒の健康保持・推進/スポーツの振興
- 4 幼児教育の充実
  - ・幼小連携の促進/子育ての相談体制

#### 基本目標 2

##### 伝統・文化の理解と国際性を育む

- 1 郷土と伝統・文化についての教育の推進
  - ・地域の歴史、伝統・文化に対する意識高揚/郷土の伝統文化の継承・発展
- 2 国際性を育む教育の推進
  - ・英語によるコミュニケーション能力の向上/国際理解教育の推進



#### 基本目標 3

##### 豊かな心・道徳性・規範意識を育む

- 1 心の教育・道徳教育の充実
  - ・人間関係の形成やマナー・ルールなど社会規範の指導の充実/豊かな人間関係づくりプログラムの実施
- 2 感性を育む教育の充実
  - ・図書室機能の活用による調べ学習などの主体的な学習活動の展開/交流や体験活動の活発化による青少年の健全育成



#### 基本目標 4

##### よりよい学校教育環境づくりを進める

- 1 教職員の資質向上
  - ・教職員研修の充実
- 2 教職員の負担軽減に向けた取組の推進
  - ・教育センターによる教職員の学習・生徒指導支援
- 3 教育環境の整備・改善
  - ・中学校区ごとの小中連携の推進
- 4 学校安全対策の推進
  - ・通学等の児童生徒の安全確保/防災機能の強化
- 5 学校施設の整備・活用
  - ・計画的な整備/バリアフリー化の推進・地域施設としての活用

#### 基本目標 5

##### 様々な困難を抱えた子どもたちへの支援を充実する

- 1 学びのセーフティネットの構築
  - ・就学が困難な児童生徒・保護者への支援
- 2 特別な支援を要する児童生徒に対する教育の充実
  - ・心身に障害がある児童生徒に対する適切な就学支援・インクルーシブ教育システムへの理解
- 3 いじめ・不登校などへの対応の充実
  - ・教育相談体制の充実、関係機関との連携強化

#### 基本目標 6

##### 社会の変化に対応した教育を推進する

- 1 情報教育の充実
  - ・ICT機器を活用した効果的な教育の推進
- 2 キャリア教育の充実
  - ・児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進
- 3 人権教育の推進
  - ・かけがえのない自分や他者の心や命を尊重する教育の徹底/人権感覚の高揚
- 4 学校・家庭・地域の連携による取組の推進
  - ・家庭教育力の向上/地域人材との協働による放課後・土曜日等の教育活動の推進

次世代へ光り輝く 教育立県ちばプラン 第3期千葉県教育振興基本計画

千葉県教育振興基本計画	<b>基本目標1</b> ちばの教育の力で、志を持ち、未来を切り拓く、ちばの子供を育てる				<b>基本目標2</b> ちばの教育の力で、『自信』と『安心』を育む学校をつくる			<b>基本目標3</b> ちばの教育の力で、家庭と地域の絆を深め、全ての人が活躍できる環境を整える		<b>基本目標4</b> ちばの教育の力で、世界を舞台に活躍する人材を育成し、『楽しい』『喜び』に満ちた豊かな社会を創る	
	<b>施策1</b> 人生を主体的に切り拓くための学びの確立	<b>施策2</b> 道徳性を高める心の教育の推進	<b>施策3</b> 生涯をたくましく生きるための健康・体力づくりの推進	<b>施策4</b> 共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進	<b>施策5</b> 人間形成の場としての活力ある学校づくり	<b>施策6</b> 教育現場の重視と教員の質・教育力の向上	<b>施策7</b> 多様なニーズに対応した教育の推進	<b>施策8</b> 家庭教育への支援と家庭・地域との連携・協働の推進	<b>施策9</b> 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	<b>施策10</b> 郷土と国を愛する心と世界を舞台に活躍する能力の育成	<b>施策11</b> 「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進
成田市教育振興基本計画	<b>基本目標1-2</b> 学習指導の充実(基礎学力の習得・充実)	<b>基本目標3-1</b> 心の教育・道徳教育の充実	<b>基本目標1-3</b> 子どもの健康・体力づくりの推進	<b>基本目標5-2</b> 特別な支援を要する児童生徒に対する教育の充実	<b>基本目標1-1</b> 豊かな学びを支える学校・学習環境づくり	<b>基本目標4-1</b> 教職員の資質向上	<b>基本目標5-1</b> 学びのセーフティネットの構築	<b>基本目標6-4</b> 学校・家庭・地域の連携による取組の推進	<b>基本目標2-1</b> 郷土と伝統・文化についての教育の推進	<b>基本目標2-2</b> 国際性を育む教育の推進	
	<b>基本目標1-4</b> 幼児教育の充実	<b>基本目標3-2</b> 感性を育む教育の充実			<b>基本目標4-3</b> 教育環境の整備・改善	<b>基本目標4-2</b> 教職員の負担軽減に向けた取組の推進					
	<b>基本目標6-1</b> 情報教育の充実	<b>基本目標5-3</b> いじめ・不登校などへの対応の充実			<b>基本目標4-4</b> 学校安全対策の推進						
	<b>基本目標6-2</b> キャリア教育の充実	<b>基本目標6-3</b> 人権教育の推進			<b>基本目標4-5</b> 学校施設の整備・活用						



(3) 「成田市教育施策基本目標 1-2」と「教育指導課・学力向上への取り組み」との関わりー (資料2)

成田市学校教育振興基本計画 - 輝くみらい NARITA 教育プランより -

基本目標1 社会を生き抜く力を育む 2. 学習指導の充実(基礎学力の習得・充実)		基本目標3 豊かな心・道徳性・規範意識を育む 2. 感性を育む教育の充実	基本目標4 よりよい学校教育環境づくりを進める 1. 教職員の資質の向上	基本目標6 社会の変化に対応した教育を推進する 1. 情報教育の充実				
(1) 児童生徒の主体的な学びを支える取り組みの充実	(2) 指導内容、指導方法の工夫改善ときめ細やかな指導体制の整備	(3) 学力向上に向けた施策の検証・改善	(1) 読書活動の推進	(1) 教員研修への支援				
・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けて、児童生徒が主体的に学び、授業で行ったことの振り返り学習を自主的に行えるよう、学習習慣の定着に向けた取組を推進する。また、中学校区ごとに共通実践課題の有効な実践に向けて連携を図る。	・アクティブラーニングなど、児童生徒が自らの学習上の課題を正確に把握し、目標を立て、その達成に向けて努力するための効果的な学習方法や生活習慣を身につける取り組みを推進する。	・児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育むため、児童生徒が「わかる」を実感できる授業づくりに向けた取組を推進する。	・児童生徒一人ひとりの学習内容の理解状況を客観的に把握し、具体的な学力向上策を検討していく資料として成田市学力調査を実施し、調査結果をもとに各学校での具体的な学力向上や教員の授業力向上を目指した取り組みを推進する。	・学習指導案や教材・資料など、児童生徒の学習指導に役立つ情報を教職員が共有化する仕組みを構築し、これを効果的に活用して学習指導を充実させる。	・学力向上に成果をあげている学校の学習規律や学習習慣の確立を図る実践事例を取材し各小中学校で共有できるようにリーフレットを作成・配布し、学力向上への取り組みを推進する。	・効果的な調べ学習や主体的な学習を支援することで、児童生徒の読書活動の振興を図る。	・児童生徒の生きる力を育み、質の高い学習を実現することができるよう、また今日的教育課題に対応するため、教育センター講座や教育相談講座の内容を充実するとともに、新規採用者の増加に伴って増加する悉皆研修対象者に対応するためのシステムの構築を図る。	情報化技術の活用能力を育成し、情報通信技術を活用した効果的な教育を行うために、全小中義務教育学校へのタブレット端末の導入、LAN整備を行い、学校環境整備を推進するとともに、ICT活用に関するサポート体制の充実を図る。
学習環境の整備	学び方の習得	学習内容の明確化・授業改善	学習状況の実態把握・授業改善	学習環境の整備・実践の共有	実践の共有	学び方の習得・学習環境の整備	教職員研修の充実	GIGA スクール構想の実現

成田市教育委員会 教育指導課の重点

3. 学習指導の充実				4. 教職員の資質・能力の向上	2. GIGA スクール構想の実現	
3-(1) 「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」を調和的に育むことができるよう指導内容の精選・重点化を図り、児童生徒が粘り強く学習に取り組み、且つ自ら学習調整が行えるよう効果的な指導計画及び評価計画を作成し、その実施に努める。	3-(2) 目標に準拠した評価を一層重視し、各教科等の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、指導と評価の一体化に努める。	3-(3) 一人一台貸与されるタブレット端末をはじめとする様々なICT機器を効果的に活用したり、体験活動を積極的に取り入れたりとすることで、一人一人の児童生徒の個性や興味・関心を生かした授業づくりに努める。	3-(4) 基礎的・基本的な知識・技能の定着と望ましい学習習慣の確立を図るとともに、「成田市学力調査」及び「全国学力・学習状況調査」の結果を活用して、学力状況を把握・分析し、学力向上に努める。	3-(5) 学校図書館の整備を進め、計画的な活用を通して、児童生徒の読書活動を推進するとともに、調べ学習などの主体的な学習の支援に努める。	4-(1)～(4) 教職員の資質・能力の向上 ・教職員自らの課題解決に向けた主体的な研修・調査研究の支援に努める。 ・若年層、講師を対象とした相互実践研修を行い指導力の向上に努める ・指導主事及びICT支援員を各学校に派遣し、iPadを効果的に活用した授業スキルの向上を図る。	2(1)～(2) ・児童生徒一人一人にタブレット端末を貸与し学校の高速度ネットワーク環境を構築することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、校正に個別最適化された学びを実現できるよう努める。 ・タブレット端末の効果的な活用を通して、豊かな創造性を備えるとともに、持続可能な社会の創り手として予測可能な未来社会を自律的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成できるよう努める。

## 5. 学力向上に向けた市内共通実践課題

NARITA 教育プラン

### (1) 成田市教育委員会 教育指導課「学校教育の方針と重点」の周知

- ・簡略化したものをリーフレットにまとめ、成田市教職員全体での周知を図る（週案等に綴じ込む）※4月に配布済。



### (2) 相互実践研修の実施（指導主事 ↔ 2・3年目、講師）

NARITA 教育プラン 基本目標 4-1-1 (1)

指導課の重点 3-1 (1) ~ (5)

- ・採用 2・3年目の教員を対象とした相互実践研修を実施し、授業を参観した後に研究協議や助言を行う。また、学校からの要請に応じて指導主事による模範授業を実施する。
- ・講師を対象とした相互実践研修も行い、幅広い層に対して、授業改善の指導を助言する。

### (3) 学力向上における共通実践の設定

- ・本市の学力向上における共通実践項 6 目

- ①学習課題の明確化及び、児童・生徒主体の対話的な学びを促すため、授業改善の実践項目を設定（ダブルアップシート）
- ②学力調査を活用した授業改善
  - ・同一集団の経年変化を活用したPDCAサイクルによる授業改善
- ③優れた指導実践等の共有化
  - ・市内共有サーバーを活用した指導案等の共有化
  - ・リーフレットや教育センターだよりを通じた効果的な実践の共有
- ④家庭での学習習慣の確立
  - ・「ちばっ子チャレンジ100」「ちばのやる気ガイド」「家庭学習のすすめ」等を活用した家庭学習の奨励
  - ・デジタルドリル、デジタル教科書の活用
- ⑤学校図書館の計画的な運用と読書活動の推進
  - ・学校図書館司書との連携を通じた蔵書の活用と、読書機会の設定
- ⑥日々の授業におけるタブレット端末の効果的な活用の推進
  - ・新たな協働学習のためのツールとして使用
  - ・デジタルドリルによる個別最適化学習の実施

※資料【成田市における学力・学習調査事業の変遷】

	全国学力・学習状況調査	成田市	調査の目的とその背景
H19～	悉皆	なし	・千葉県標準学力テストを実施
H22	抽出	田研出版	・全国調査が抽出となったため、全小中学生の学力や学習状況を把握し、指導改善に生かす等の目的で、市独自で実施する。
H23	中止	総進図書	・児童生徒の学力の経年変化を追い、より精緻に学力傾向を分析するなどの目的で、3年間、同一問題を出題し続ける。
H24	抽出		
H25	悉皆		
H26	悉皆	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の1～2学期の学習内容を出題範囲として、複数年に渡り、新作の問題を出題する。そのため、問題等を学校で活用することができるようになった。
H27	悉皆 理科実施	東京書籍	
H28	悉皆		
H29	理科未実施		
H30	悉皆 理科実施		
H31 (R1)	悉皆 中・英語実施 理科未実施		
R2	中止	東京書籍	・緊急事態宣言により、2か月の臨時休業期間があったため、実施教科をしばらく、小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・英語で実施。 ・実施日も1週間ずらし、1月20、21日に実施。 ・社会、理科が実施代わりに質問紙調査を行った。
R3	悉皆 中・英語実施 ※例年より1か月ずらし、5月27日実施。	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題
R4	悉皆 理科実施	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題
R5	悉皆 中・英語実施 (話すこと調査オンライン実施)	東京書籍	・これまで1月中旬に実施していたところ、12月上旬での実施に時期を変更（各校での分析やフィードバックの時間を確保するため） ・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題
R6	悉皆	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題
R7	悉皆	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題 ・小学校3年生以上でCBT方式による実施（PBT：12月上旬、CBT：1月上旬から中旬に実施）

